

マージン（月間空容量算出・公表時） の単位について

電力広域的運営推進機関
平成27年11月9日

1. はじめに

マージンの値の考え方については、送配電等業務指針に規定されているが、現状、算出したマージン（月間空容量算出・公表時）の丸め方が統一されていないため、今後、以下のとおり統一化を図る。

（現状の丸め方例）

- ・ 100MW単位で繰上げ（1社）、50MW単位で繰上げ（3社）、10MW単位で繰上げ（3社）

〔参考〕実需給断面のマージン値に見直すため、丸めの概念なし（1社）

■送配電等業務指針（抜粋）

（マージンの値）

第170条 マージンの値は、原則として、各供給区域における持続的な需要変動及び偶発的な需給変動に対応するために必要な電源の容量（以下「必要予備力」という。）のうち融通期待量を各供給区域に接続する連系線に配分して、算出する。

2 本機関は、長期計画において各連系線に確保するマージンの値及び確保すべき理由を公表する。

3 融通期待量は、当面の間、各供給区域の系統容量の3パーセントに相当する電力又は供給区域に電気を供給予定の供給区域内の電源のうち、出力が最大である単一の電源の最大出力（但し、当該電源が発電する電気を継続的に供給区域外へ供給している場合は、当該供給量を控除した値とする。）が故障等により失われた場合にも電力系統を安定に維持できる電力とし、本機関は、継続的に適切な融通期待量について検討を進める。

2. マージン（月間）の単位について①

《対案比較》

	項 目	1 MW (0.1万kW)	1 0MW (1 万kW)	5 0MW (5 万kW)	備 考
運用面	システム改修	×	○	○	1 MWとした場合マージン算出をするにあたり、現時点でシステムを改修する必要がある会社あり
	想定需要単位	×	○ (※)	△	供給計画の需要想定は「万kW」単位を使用
	緊急時対応	×	△	○	丸め単位が小さくなる程、誤認・入力ミスするリスクが高くなる
連系線利用面	混雑処理対応	×	△	○	丸め単位が大きくなる程、混雑処理対応の確率減
	空容量	○	△	×	丸め単位が細かい程、空容量が増加する。
	総 評	×	△	×	

※ 系統容量の3%確保会社のうち、系統規模の小さいエリアにおける各月最大需要の最低値は約770万kWであり、系統容量×3%は約23万kW程度とマージンは少なくとも2桁の値（万kW）となる。このため、マージンを1万kW単位とすることも選択肢となりうる（過大単位となっていない）。

2. マージン（月間）の単位について②

《評 価》

【運用面】

- 1 MW単位とする場合、システム改修が必要な会社あり、改修のための費用や期間がかかるとともに、緊急時における誤認・入力ミス等による対応遅延のリスクが高い。
- 1 0 MW単位とする場合、マージン算出の基となる想定需要の単位と平仄が合い、算出面での対応が容易となる。
- 5 0 MW単位とする場合、緊急時における誤認・入力ミス等による対応遅延のリスクが低い。

以上の事から、運用面では1 0 MW単位及び5 0 MW単位とすることが有効

【連系線利用面】

- 1 MW単位とする場合、需要増に伴うマージン見直し（増加）による、混雑処理の可能性も高くなる。
- 5 0 MW単位とする場合、マージン値が大きいほど空容量が減少する。

以上の事から、連系線利用面では1 0 MW単位とすることが有効

【総合評価】

- 上記、【運用面】・【連系線利用面】双方について総合的に評価し、1 0 MW単位にすることが適当